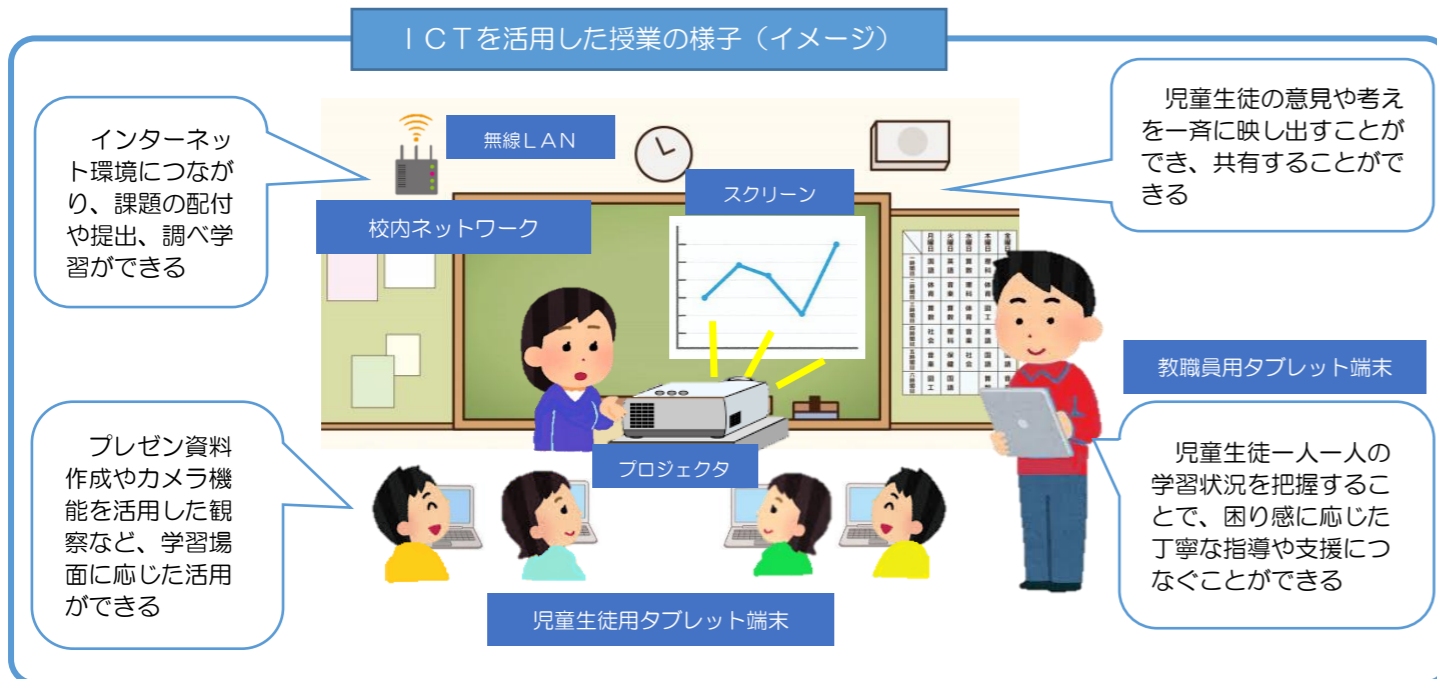


四日市市GIGAスクール構想



四日市市GIGAスクール構想では、これからの予測困難な時代を生き、「夢と志をもち、未来を創るよっかいちの子ども」を育てるため、「情報活用能力」を基盤として、生涯にわたって自ら学び続け、他者と協働して未知の課題を解決できる基本的な資質・能力を育てていきます。
令和の新時代を生きる子どもたちの未来を見据え、1人1台学習者用タブレット端末と小中学校の高速大容量のインターネット環境を一体的に整備し、ICTとこれまでの教育で培った教育をベストミックスさせることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実践により、子どもたちに必要な力を育てていきます。

◎ ICT活用による授業改善を通じた学力向上



【参考】GIGAスクール構想とは…令和元年12月文部科学省より「Global and Innovation Gateway for All」の略で Society5.0 時代に生きる子どもたちの未来を見据え、義務教育課程1人1台分の端末(PCやタブレット)及び市立学校の高速大容量の通信ネットワーク(校内無線LAN)を一体的に整備することで、誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現していこうとする取組です。

GIGAスクール構想で学びのスタイルを変える

ポイント1 学習者用タブレット端末を「学びの文房具」に

鉛筆や消しゴム、辞書と同じように、“調べる”“まとめる”“発表する”“文書を受け取る・提出する”など、必要な場面で文房具の1つとしてタブレット端末を使いこなしながら学習することで、子どもの学びを深めます。

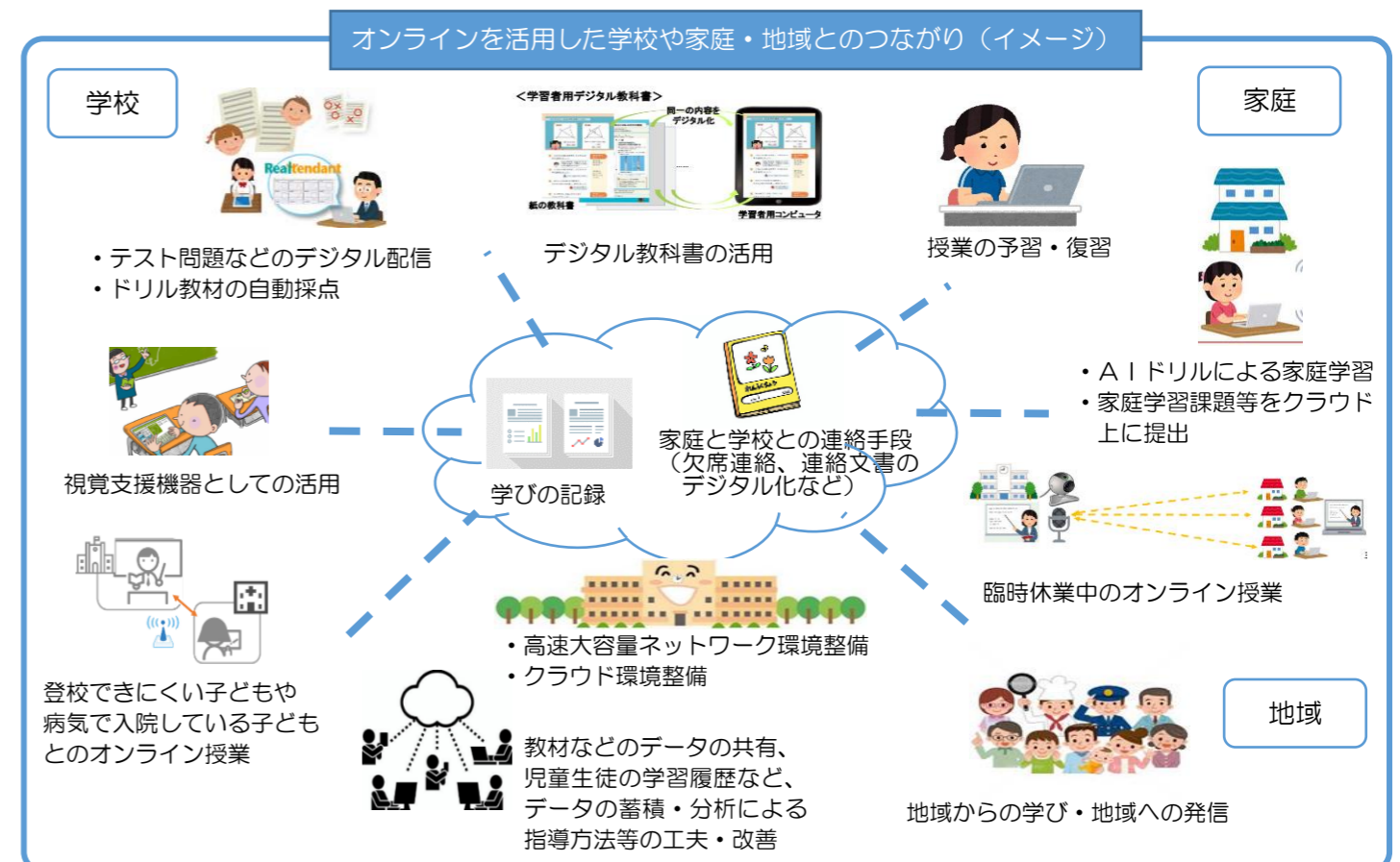
ポイント2 ICTと紙のハイブリッドで、わかりやすい授業に

これまで活用していた教科書やノート、プリントに加え、プロジェクターを用いて写真や動画を提示したり、友達の考えや意見を瞬時に映し出したりすることで、より効果的でわかりやすい授業を進めます。

ポイント3 学校と家庭との連続的な(シームレス)学びで学習習慣を定着

教科書と同じように毎日、家庭に持ち帰ることにより、学校で学んだこと(復習)やこれから学ぶこと(予習)を確認したり、AIドリルを活用したりすることで、児童生徒一人一人に応じた家庭学習を進め、その定着を図ります。

◎オンラインを活用した学校や家庭・地域とのデジタル連携



ICTを活用した四日市市の新しい教育

個別最適な学び

児童生徒一人一人がタブレット端末を「文房具」のように使いこなしながら、子どもたちが生涯にわたって学び続けようとする意欲や確かな学力、豊かな創造性を育みます。



一人で学習を進める
家庭学習による授業の予習・復習やAIドリルなどを活用し、学習の基礎・基本の定着を図ります。



使いたいときに使う
知りたいことがあれば、タブレット端末を活用して瞬時に調べることができるなど、児童生徒自身が課題に合わせて学習を進める力を育成します。



場面に合わせて使う
カメラ機能やプレゼンソフト、文書作成ソフトなど、自分の課題に合わせたアプリやソフトを活用するなど、適切な学び方を身に付けます。

協働的な学び

瞬時に自分の考えを発信したり友だちの考えを共有したりしながら、多様な価値観や考えに触れることで、協働しながら問題発見や問題解決に挑む資質・能力を育みます。



仲間とつながる
さまざまな教科や学校での活動において、思考ツールで自分の考えを整理したり、仲間と意見や考え、動きを共有したりしながら、問題発見、問題解決する力を育成します。



地域とつながる、世界とつながる
オンラインで地域の方と話をしたり、プロの話を聞いたりしながら、児童生徒のキャリア形成を図ります。さらに、自分たちの地域を超えて、日本全国、世界の人々ともつながることで、さらに学びを深めます。



いつでもどこでも授業ができる
長期にわたる自宅学習時には、自主学習に加え、オンライン会議システムを活用したオンライン授業を実施します。

個別最適な学び

学習意欲の向上
言語能力の育成
問題発見・問題解決能力の育成
情報活用能力の育成

協働的な学び



具体的な取組

すぐにでもどの教科でも文房具のように使えることを実感する

- ①インターネットを活用した調べ学習
- ②文章、プレゼンテーション資料の作成
- ③AIドリルなどを活用した個別学習
- ④毎朝の健康チェック
- ⑤録画機能を活用した自主学習
- ⑥臨時休校中のオンライン授業



タブレットやICT機器を用途に応じて適切に使うための能力を身に付ける段階

学びを深める授業をとおして、資質・能力を確かにする

- ①一斉学習
 - ・ 教員による教材の提示
 - ・ 児童生徒のタブレット画面一斉投映
- ②個別学習
 - ・ 思考ツールによる考えの整理や分析
 - ・ 授業の振り返りや復習問題
- ③協働学習
 - ・ タブレットを活用した意見交流・発表
 - ・ 他校との遠隔授業による学習

タブレットやICT機器の能力や特徴を活かした授業づくりを通じて、教育・学習効果を高める段階

各教科の学びをつなぎ、一人一人の夢や志の実現に活かす

- ①オンライン社会見学、オンライン職場体験
- ②英語による地域への情報発信
- ③防災アプリを活用した学習
- ④国際交流や他地域との交流



タブレットやICT機器を主体的に活用して、教科の学びを人生の充実やSDGsの視点を活かして社会課題の解決に応用できる段階

1. 四日市市GIGAスクール構想で目指すICT環境整備と効果的な活用

本市は、国のGIGAスクール構想の推進に合わせて、1人1台タブレット端末、校内無線LAN、各教室へのプロジェクタセットの配備を進め、令和2年度末に全小中学校への整備が完了しました。配備されたタブレット端末は授業での活用に留まらず、夏休み期間中の家庭学習、コロナ禍での自宅等におけるオンライン学習や自宅待機者とのつながり等、本市の子どもの学習の充実、学びの継続と保障のために、これまでにない新たな役割を果たしつつあります。

そのため、現在策定中の第4次学校教育ビジョン（計画期間：令和4～8年度）の施策の重点に、学校教育におけるICT活用とデジタル化推進の基本構想となる四日市市GIGAスクール構想を位置付け、ICT環境の整備とその効果的な活用をさらに進めることで、本市の教育力の向上、子どもたちの学習環境の充実を図っていきます。

<取組の方向性>

- ① 1人1台タブレット端末を日常的に学校と家庭で使用することで、**学校における一斉学習・協働学習**と**家庭における個別学習**が繋がれ、個別最適化された学習が実現できる。
- ② このような学びを実現するためには、**個別学習支援ソフトウェアの配備**と、それらを活用するための**教職員用タブレット**、クラウドサービスの活用が不可欠となる。
- ③ さらに、個別学習支援ソフトウェアに蓄積された**学習データ活用**を進めることにより、子ども一人ひとりの学習状況に応じた指導や、教材の共通化による業務効率化（**働き方改革**）につながる。

(参考) これまでの学校におけるICT環境の整備状況

整備内容	年度 台数等\月	令和2年度						令和3年度					
		7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
R1導入小学校タブレット(各校40台)	1,480台	[Blue bar from 7/2022 to 6/2023]											
小中学校タブレット(市単分)	3,690台	[Blue bar from 8/2022 to 6/2023]											
小中学校タブレット(GIGAその①)	2,796台	[Blue bar from 9/2022 to 6/2023]											
小中学校タブレット(GIGAその②)	23,577台	[Blue bar from 1/2023 to 6/2023]											
大型提示装置 普通教室+特別教室各校6台		[Yellow bar from 1/2023 to 6/2023]											
校内ネットワーク整備 全教室にWi-Fi		[Green bar from 2/2023 to 6/2023]											

試用期間: 7/2022 - 8/2022
 本運用: 9/2022 - 6/2023
 小学校2学年 中学校1学年分整備完了: 11/2022
 1人1台端末本運用開始: 4/2023

2. 今後の具体的取組について

① 個別学習支援ソフトウェアの導入

タブレット端末の特徴を活かした、自動採点や学習履歴の蓄積ができるAI機能を搭載の個別学習支援ソフトウェアの導入に向けて検討を進めます。

これらを授業の振り返りや朝や帰りの短時間学習、タブレット端末を家庭に持ち帰った際の家庭学習で活用することにより、学習習慣の定着を図り、基礎学力の定着やAI技術による個々の児童生徒の習熟度に応じた学びと、児童生徒の学習履歴を活用することによる授業の質の向上ときめ細かな指導の実現を目指します。

また、自動採点や学習履歴の自動的な蓄積による教員の業務の効率化を図ります。

<検討中のドリルの特徴>

- ・小学校低学年では、学習の基本となる、ひらがなや漢字等の正確な書き取り学習や、小学校低学年でもわかりやすい操作性を備えている。
- ・小学校高学年や中学校では特に数学等の積み重ねが必要となる教科については、AI機能により、生徒の習熟度に合わせて問題が自動的に出題され、つまずきのある生徒の学び直しや、さらなる学力の伸長を図ることができる。



② 教職員用1人1台タブレット端末の配備

中学校では、教科担任制で教科ごとにその教室に入る教員が入れ替わるため、教室配備のプロジェクタセット用タブレットを職員室に持ち込んで教材を作成したり、授業準備をしたりすることが困難な状況です。タブレットの移動ができないため、授業を行う教室すべてに教材等の準備を施す必要があり、業務量の増加要因にもなっています。また、小学校では、今後の高学年教科担任制の導入時にも影響が生じることとなります。

学校における一斉学習・協働学習の効果を確実なものとするため、現在保有するプロジェクタセット用タブレットを個人専用とし、不足分は追加導入するなど、教職員用タブレットの1人1台化に向けて検討を進めます。

<想定される活用方法>

- ・デジタル教科書の画面、資料や動画等をプロジェクタに投影
- ・教材配布、回収、回収したレポートや作品を評価
- ・児童生徒画面の確認やそれらをプロジェクタに投影して共有
- ・児童生徒のノートや作品等を写真撮影し投影
- ・端末をもち歩いて机間指導
- ・児童生徒の欠席連絡や保護者からの連絡事項を確認 等



③ 学校における高速ネットワークの整備

1人1台タブレット端末等の配備が完了したため、今後は、これらの機器と授業支援システムといったICT活用により、学校における「一斉学習」「個別学習」「協働学習」など教育の質の向上を目指します。

また、その実現に向けて、大容量のデータ通信にも対応できる校内外を結ぶネットワーク環境の整備についても検討を進めます。

<将来に向けたICT環境のイメージ>

